

① 次の文章を読み、後の問(問1～問7)に答えなさい。

行幸[※]ちかくなりぬとて、殿[※]のうちのよいよつくろひみがかせたまふ。世におもしろき菊の根をたづねつつ掘りてまゐる。色色うつるひたるも、黄なるが見どころあるも、さまざまにうゑたてたるも、朝霧のたえまに見わたしたるは、げに老いもしぞきぬべき心ちするに、なぞや、まいて、思ふことのすこしもなのめなる身ならましかば、すきずきしくももてなし、わかやきて、つねなき世をもすべしてまし、めでたきことおもしろきことを見聞くにつけても、ただ思ひかけたらし心のひくかたのみつよくて、ものうく、おもはずに、なげかしきことのまざるぞ、いと X や。

「いかで」「いまはなほ物わすれしなむ」「思ふかひもなし。罪もふかかんなり」など、明けたてばうちながめて、水鳥どものおもふことなげにあそびあへるをみる。

水鳥を みづのうへとや よそにみむ

われもうきたる 世をすべしつ

「かれも、さこそ心をやりてあそぶとみゆれど、身はいとくるしかんなり」と、おもひよそへらる。

※ 小少将の君の、文おこせたまへる返りごと書くに、時雨のさとかきくらせば、使ひもいそぐ。

「又、空の気色も心ちさわぎてなむ」

とて、腰折れたる言や書きませたりけむ、暗うなりにたるに、たちかへり、いたう霞みたる濃染紙[※]に、

雲間なく ながむる空も かきくらし

いかにしのぶる 時雨なるらむ

書きつらむ言もおぼえず、

ことわりの 時雨の空は 雲間あれど

ながむる袖ぞ かわくまもなき

『紫式部日記』による

※注 行幸——天皇が外出すること。ここは、中宮彰子の実家・土御門第で出産した若宮の様子を、一条天皇が早く知り

たいこの思いによる行幸。 殿——彰子の父・藤原道長の土御門第。 小少将の君——彰子づき女房

で紫式部の親友。 濃染紙——紫色に濃く雲がたなびいているように染めだした紙。

問1 空欄 X を埋めるのに、最も適当なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア あやしき イ うれしき ウ くるしき エ ちかしき オ わびしき

問2 傍線部②「うく」④「なむ」⑤「いたう」の語について、それぞれ品詞名を記しなさい。

問3 傍線部①「老いもしぞきぬべき心ち」を現代語に訳しなさい。

問4 傍線部②「なぞや」は、どの本文にかかってゆくか、その初めの四文字を記しなさい。

問5 傍線部③「水鳥を みづのうへとや よそにみむ われもうきたる 世をすべしつ」の歌の現代語訳をしなさい。

問6 傍線部④「身はいとくるしかんなり」とあるが、「水鳥」のどのようなあり様を言ったものか、説明しなさい。

問7 傍線部⑤「腰折れたる言」とは、どういうことか、説明しなさい。

② 次の作品①～③について、それぞれ五十文字程度で説明しなさい。

- ① 古事記
- ② 源氏物語
- ③ 増鏡

二〇二〇年度 自己推薦入試（後期） 解答用紙

日本文学科
古 文
受験番号
氏名

1

問 7	問 6	問 5	問 4	問 3	問 2	問 1
					㊸	x
					㊹	
					㊺	

2

③	②	①